

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体での理念は研修等を通じて共有されている。当事業所としての理念も共有はされていると思うが、実践においては個人差がみられる	母体の理念を開設時から周知し実践してきたが、2年前の管理者の交代を機にリーダー2人と3人で話し合いホームの基本理念と方針を作成し、職員には内容を説明し発表している。全体会議で各職員に理念の振り返りを促し意識づけしているが実践面で差が生じている。現在「仕事への注意事項」を読み合わせ、業務に集中できるように取り組んでいる。ホームの方針にそぐわない言動が見られた時には管理者やリーダーが注意を喚起している。	理念(事業所が目指すサービスのあり方)を共有し実践につなげていくことは大切です。事業所の拠り所となるものは何かを全職員で話し合われることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居されている方々の心身機能の低下などが多くみられるようになり、最近は地域との交流は困難な状況となってきた	利用者が地域に出掛けて行く機会は開設当初より減りつつあるが施設を訪れる小中学生との交流があり、行事の催し物には楽器演奏、歌や踊り等、地域の各種ボランティアが継続して訪問している。保育園児と利用者が交互に訪問し合い楽しんでいる。民生委員の視察、短大生や福祉学生の実習の受け入れ、認知症の相談窓口も開き電話相談などに応じている。地域の住民からは新鮮な野菜やりんご、お菓子などが届けられている。職員の中には地区の役(組長、育成会、消防団員など)を引き受け活動している職員もあり、法人と共に地域との関わりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や各種行事等を通じて認知症の理解を深めて頂けるよう心がけている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を実施。事業計画、事業報告、入所判定基準の見直し、利用料の変更などについて役員の意見を聴取している	奇数月の第3月曜日に家族、区長、民生委員、地区自警団員、市職員、地域包括支援センター職員の出席を得て特養施設と一部合同で時間をずらし行っている。ホームの状況を報告後、参加者から情報や意見・要望を伺っている。ホーム近辺の独居の高齢者宅の雪かきを民生委員が主にしているが両施設に手伝って欲しいと相談があり出来る範囲で協力している。災害時の施設開放や災害時の夜間帯は職員が駆けつけるより地域の方々の応援が必要等の助言もあり双方向的な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等を通じて介護保険課、地域包括支援センターの職員と日常的な取り組みを報告している。他、事故発生時など困難時は市町村担当者と相談している	市担当者とは何かあれば電話や窓口に出かけて相談し、助言を頂いている。市や包括主催の研修(介護保険制度、感染症など)の紹介があれば出席し、日々の業務に活かしている。事故報告は担当窓口に向き書類を提出し状況を伝えている。市担当者には何事にも協力的で親身に対応していただいている。介護認定更新や区分申請があれば家族の依頼で代行している。認定調査員の来訪時は本人の状態を伝えている。家族の同席は少ない。1名のあんしん(介護)相談員が毎月来訪している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護委員を組織し、委員活動で行った研修等を通じて、職員の意識を高めている	身体的拘束等を行う場合は法人の権利擁護委員会の審査があり、拘束が実際に行われる場合は委員会作成のガイドラインに沿って実施し、その状態が速やかに解消されるよう努めることが義務づけられている。職員は身体的拘束その他利用者の行動を制限する具体的な行為を理解しており利用者が自由に安心して過せる環境づくりに努めている。外出傾向の利用者には話しを聞き外出の目的によっては自宅方面に車で向ったり、気分転換を兼ね散歩に出掛けている。	

グループホーム柳島爐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上 高齢者虐待防止に関するポスターの掲示をしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	外部研修等個々に参加をし、学ぶ機会は設けているが、活用に至るまでの支援はあまり実施されていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に説明を行い、理解、納得した上で契約につなげている。又、料金改定の際には書面での案内を行い、疑問等には直接回答している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表参加や家族会を通じて意見を聴取又国保連、市苦情の連絡先を掲示している	利用者の多くは自らの言葉や職員の問いかけの工夫で意思表示ができる。難しい方には今までの情報や本人の状態などを見ながら本人本位に検討している。外出や入浴、食事等は本人の希望に沿い支援している。家族会は敬老会と忘年会の2回開催し、多くの家族等が参加している。家族会会報「いこい」を年4回発行し、利用者の様子、行事報告や行事予定などを載せている。家族の来訪時には本人の様子を伝えながら要望や意見、気づきなどを伺っている。家族からは身内のように親身になって話を聞いてもらえると喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回GH会議には管理者が出席し、日常的に意見や提案を聞き、業務に反映できるよう取り組んでいる。意見や提案があれば、必要に応じて代表者会議などを通して検討している	毎月、職員全員参加のグループホーム会議があり、母体の特養の運営報告、ホームの報告、全利用者のケース検討などを約2時間掛けて行っている。職員は日頃から思っていたり考えていることを発言している。例えば、利用者個々の対応方法(排泄介助の仕方)についての統一や食形態の見直し等を提案し、その場で検討し、一旦実施して様子を見て再度検討している。話しやすい雰囲気での会議が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の見直しや必要な制度を取り入れ、年1回は雇用に関するアンケート調査を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員学習会、施設内研修の開催や資格取得のため、職員希望する外部研修等にも参加している		

グループホーム柳島爐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実施していない		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当されていたケアマネや家族からの情報を元にし、入所前に面談を行い、不安や要望等を聴取、本人の便宜を図るようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み、見学時などに面談を行い、要望等を聴取している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申込み時等に、GHで提供できないサービス内容に関しては、他事業所の紹介や案内をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事、調理、片付け、洗濯等日常生活行為を、スタッフと一緒にやっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者が面会や家に帰りたい等の希望があった時には、家族に面会の依頼をしたり外出の協力、手伝いをお願いしている。家族会主催の行事は、家族会より呼びかけをしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に応じてスタッフが付き添い自宅に帰ったり、田んぼを見たいとの希望があった時には、家族に協力をお願いしている。希望の面会、訪問、外出外泊等に関しては制限していない	友人と手紙をやり取りしている方、隣接のデイサービスに通う友達に会いに行く方、息子さんに携帯で話をする方、知人の訪問を受ける方など利用後も馴染みの人との関係が継続できるように本人の人間関係に関心を持ち支援している。お盆やお正月など親族が集まる時期に外出や外泊する方、普段遠方にいる家族が帰省した折に外泊する方もいる。パーマを掛けに馴染みの美容院へ家族と出かける方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った入居者と食席を一緒にしたり、入浴や外出ができるように配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時への行政への手続き、転居先の施設等への引継ぎを支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者のニーズとサービス計画の変更に関し、整合性が取れているか随時本人と面談したり、カンファレンスを開催して検討している	職員は一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向等に関心を払い、日々の中で声がけに工夫しながら把握に努めている。天気の好い日には外出の話題を多くしたり、野菜など農産物の頂き物があった時に食べ物の話しをするなど、利用者との会話の中で本心や意欲的な言葉を聞くことが出来ている。意思表示が難しい利用者に関しては家族等からの情報や日頃の様子などから本人の立場に立って皆で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴は、入居申込み書や家族からの情報を得て把握に努めている。日々の生活状況で発見した事もスタッフ間共有している。希望時には、ケアマネが面談や傾聴をし対応している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の日々の生活状況を観察、変化がみられる内容などケア記録に記載、情報を共有しケアにつなげている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース検討等変化が見られたときは随時見直しを行っている。アセスメントをして入居者、家族の了解の下介護計画を作成している	利用者や家族からの介護に対する意向、アセスメント、日々の記録などを基に本人の生活が向上するための介護計画を計画作成担当者、施設長が作成し本人や家族の同意を得た上で毎月のホーム会議で発表している。ホーム会議の都度、全利用者の遂行状況を確認し、概ね6か月で評価、見直しをしている。本人の状態が変わり介護計画が遂行できない時や意向が変わった時には現状に即した新たなものを作成している。	介護計画は個別に作成されているが、更に、全職員が各利用者の計画内容を把握できるように工夫されることを望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子、変化などをケア記録に記入し、職員間で情報を共有しながら介護計画を見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度者対応に合わせて、リフト浴槽を増設。医療処置の必要性が高い方に対して、主治医、総合病院と連携を図り対応している		

グループホーム柳島爐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への関わりが少なくなっている分、他事業所との交流を図ったり、外出できる機会を増やし、楽しみの場を提供している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師を配置、各主治医による定期往診及び入居者の状態に応じて受診できる体制を整えている	本人家族が希望するかかりつけ医を継続している。かかりつけ医の内、3名の医師は月に1ないしは2回往診し、疾病状態や健康の管理をしている。定期受診や通院は家族にお願いしているが依頼があれば看護師が付き添っている。緊急時に受診が必要となった場合は原則職員が付き添うが病状や治療方法によっては家族と相談が必要になることから協力を依頼することもある旨を予め家族に説明している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の健康管理は看護職、介護職が連携しながら行い、状況に応じて受診している。又、特養看護師との連携体制を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理職クラス、看護師を中心に、病院関係者との情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状況変化により、家族、施設、主治医との話し合いの場を設け、方向性等の相談をしている	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」を本人や家族に説明し、ホームが対応できる最大の支援について伝えている。最期までと利用を希望する家族はいるが本人の状態や家族の都合で意向(特養や老健入所など)が変わるケースもある。過去に2名の方の最期を看取っている。この一年では終末期をホームで過ごし、急変後、医療機関に搬送され最期を迎えた方が数名いる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	様々な非常事態に備え、連絡網、急変時マニュアルを整備し、研修等を通じて確認している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画、防水計画を作成。年2回の防災訓練や緊急連絡網の確認、地区合同での防災訓練及び防災協定を結んでいる	毎年、年2回防災訓練を利用者と共に実施している。今年度、6月には昼間の地震想定避難訓練を単独で行っている。また、9月には消防署の協力の下、隣接の特養と合同で夜間想定訓練(通報、初期消火、避難誘導)を行っている。消防署員から地震や火災時の居室ドアの開(火事)、開(地震)の違いの話や日除けとしてヨシズの常時使用は認められないなど、助言や指導を頂いている。防災設備(スプリンクラー、自動火災報知機、漏洩火災警報器など)を整え、点検整備を定期的実施している。災害用の備蓄も準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝朝礼時に注意事項を唱和し、注意喚起している。又、権利擁護委員会や各種部会による会議等で現場での声かけや介護が適切であるか確認し合っている	サービス提供に当り「常に利用者一人ひとりが人格を尊重され、それぞれの役割を持って家庭的な環境の下で日常生活を送るための配慮を行う」等、運営規程に記されている。職員は利用者個人のありのままを受け入れ、本人に合わせた声かけをしながら入浴や排泄の支援をしている。毎朝、注意事項を確認し、意識しながら利用者との関わりに取り組んでいる。法人の部会等で職員の声かけや対応等を検証し、利用者の尊厳やプライバシーの確保の徹底に努めている。利用者には苗字や名前に「さん」を付け丁寧に声かけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事内容は、食検簿により入居者の食事量や意見、要望を確認してメニューに反映している。外出等は希望を伺い調整している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当日の体調等を把握、確認し、食事や入浴などの配慮はしているが、個々の希望に沿った支援の提供はできていない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類に関しては家族の協力を得て、手配を依頼している。訪問理美容の利用や、美容室へ出向いて整容をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者個々のレベルにあった作業をスタッフ一緒にやっている。又、食に対する意欲向上を狙い、様々なメニュー、季節食などを作っている	献立はメニュー係が中心になり一週間ずつ作成している。利用者の好物や昔ながらの料理、季節料理なども積極的に組み入れ食事が楽しみになるようにしている。利用者が徐々に席に着き始めると職員がお膳で一人ひとりに声を掛けながら配膳していた。介助を受ける利用者もそうでない利用者も職員と同じテーブルを囲み同じ物を頂いている。職員の一言からおしゃべりや笑いも始まり、和やかな雰囲気であった。減塩食の方が「塩気がない。醤油が欲しい」と訴えることもあるが、嚥下や咀嚼状況などに応じ一人ひとりに合わせた食形態で提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の確認、摂取状況に応じた食事形態の検討、栄養補助食品等の提供をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方はもちろん、自立している方にも声かけを行い実施を促している。義歯除菌洗浄も実施している		

グループホーム柳島爐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄状況を把握確認し、日中帯、トイレでの排泄行為を継続できるよう支援している。夜間帯は、PTイレやオムツ対応に切替えている方もいる	利用者の持てる力を活かしながら一部介助、声がけ、見守りをしながら日中はトイレでの排泄、排泄の自立支援に努めている。夜間は本人の希望や身体状況などからリハビリパンツからオムツにしたりポータブルトイレで対応している。利用開始時はリハビリパンツであったが誘導や声がけなどからパンツに改善され現在も昼夜布パンツで過ごしている方もおり、また、現在、半数の方が布パンツで過ごしている。トイレの電気も自動点灯となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便確認と服薬管理、水分摂取の促しを行っている。他、ラジオ体操や散歩に出掛けるなど排泄への促しを実施している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、入浴の時間帯や曜日は決まっている。体調不良や入浴への意欲がみられない時などは、曜日を改めて対応している	入浴時間は14時～16時、浴槽は檜風呂とリフト浴槽があり、遠赤外線暖房ヒーターがあり寒さしらずの入浴ができています。お風呂は日曜日以外毎日準備し、何時でも入浴できるようにしている。一日に3～4人の利用者が入浴し、週2～3回入浴している。入浴を拒む利用者には声かけや日程変更などで無理強いすることなく対応している。菖蒲湯、りんご湯、柚子湯など、季節のお風呂を懐かしがったり喜ぶ利用者が多い。リフト浴槽が設置される前は隣接特養の機械浴槽を借りていたという。利用者の身体機能等に合わせて二人介助の方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じた休憩時間・場所の確保をしている。昼夜逆転している方に関しては、日中の活動を促し、生活ペースの調整を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本、服薬の管理は看護師が主となって行っているが、介護士と連携を図り、服薬ミスの防止に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事や園児との交流会等を通じて気分転換を図っている。他、個々に応じた役割や気分転換の場を設けている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の中には、家族などの協力が得られ、外出、外泊等ができています。施設においては、年数回外出支援を計画している他、その時々に応じた外出支援を行っている	天候を見ながらホーム周辺を職員と一緒に利用者(独歩、補助具使用、車椅子)は散歩し気分転換している。年間の外出行事として花見、紅葉狩り、外食などに出かけている。果樹園の園主の招待を受けブドウ狩りやりんご狩りにも出かけている。外出は利用者の楽しみとなっており、家族と買い物や美容院、温泉に出かける方もいる。お盆やお正月に家族のいる自宅へ外出や外泊する方もいる。特養で行なわれている教室(踊り、編み物や折紙教室)に出かける方もいる。保育園児とは毎月交互に行き来し、交流を楽しんでいる。	

グループホーム柳島爐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、金銭はスタッフが管理しているが、本人の意向に沿って、金銭を所持している方もいる。スタッフや家族と買い物に出掛けるなどしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望により、家族や知人に連絡できるようにしている。個人的に、携帯電話を所持している方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃を行い、衛生面に配慮している。季節に応じた植物、雑誌等いつでも閲覧できるように設置している。トイレへの誘導灯は入居者の様子を見ながら点灯している。共同スペースの配置換え等必要に応じて適宜行っている	1階と2階の各ユニットはほぼ同じ造りとなっている。食堂とオープンキッチン、大型のテレビがある広いホール、窓からは柔らかな陽差しが差し込み大型の加湿器もあることから適度な温もりを感じた。壁には園児からの便りや写真、折紙のデコレーション等が掲示されている。毎日配達される新聞をソファで読んだり、職員とおしゃべりしたり、気のあう利用者同士で談笑したり、思い思いに過ごしている。トイレの場所は目印があり、浴室に大型の暖簾を掛けるなど分かり易くなっている。交流スペースには大きな囲炉裏があり、地域の人や来訪者が落ち着いて話しや相談をすることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースには数箇所及び談話等スペースを設け、その時々に応じて自由に使ってもらっている。食席にも配慮し、気の合う方々との食事時間を提供している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ペットや他者の迷惑になるような物意外は制限なく自由に持ち込んで頂いている	居室にはエアコン、洗面台、ベッド、クローゼット、飾り棚が備え付けられている。高級感のある壁紙によりホテルのような雰囲気が感じられる。クローゼットの下段には衣装ケースがあり一段毎に肌着などが整理整頓され、上段には沢山の洋服が掛けられていた。本人が安心して生活できるように自宅から持ち込んだ馴染みの物や大切な物(家具や寝具、位牌、テレビ、雑誌、鏡、家族写真やアルバムなど)を活かしながら気分よく過ごせるよう工夫している。隣室と行き来できるように隠し扉も付いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建築物の環境設備は整えている。必要に応じて各居室の表札や、設備室の表示をしている。状況に応じた福祉用具の貸し出しも行っている		